

平成 30 年度第 2 回白井市市民活動推進委員会会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 4 月 25 日（水） 13 時から 16 時
- 2 開催場所 白井市保健福祉センター 2 階 検診室 1
- 3 出席者 関口宏聡委員長、清水洋行副委員長、福留千亜紀委員、大田茂子委員
浅海仁美委員
- 4 欠席者 五十君みつる委員
- 5 事務局 岡田課長、松岡主査、長谷川主事
- 6 傍聴者 4 名
- 7 議 事
 - (1) 補助金審査の流れ[非公開]
 - (2) 公開プレゼンテーション[公開]
 - (3) 補助金審査[非公開]

8 会議概要

(1) 補助金審査の流れ[非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第 9 条第 1 項第 6 号に基づき、補助金審査の内容のため。

(2) 公開プレゼンテーション[公開]

[事務局] それでは、時間が参りましたので、ただいまより、平成 30 年度白井市市民団体活動支援補助金の審査に係る公開プレゼンテーションを開始いたします。

市では、公益活動を実施する市民団体を対象に、自立の促進を支援する補助制度を創設し、市民主体のまちづくりと活力ある地域社会の実現を目指しているところです。

このたび、平成 30 年度の補助金を募集したところ、活動発展型に 3 団体の申請がありました。それぞれの団体より申請された事業につきまして、学識経験を有する人、公共的団体などの代表者、公募市民で構成しております市民活動推進委員会の補助金審査担当委員が書類審査とあわせ、これから行います団体による発表と質疑を含め、総合的な観点から補助金の採否について、審査を行います。

本日は、市民団体による公益活動を広く市民の皆様にご覧いただく機会として、団体による発表と質疑を公開形式にてプレゼンテーションを実施することといたしました。傍聴の皆様には、お配りした資料といたしましては、公開プレゼンテーションという A4 の 1 枚の紙と、それから 3 団体目の発表資料になります「ネットの会合施設、サロンづくり」というもの、この二つをお配りしております。この後順番に、ステップ、ふじ元気ひろば、NPO 法人白井助け合いネットという順番で、プレゼンテーションを行っていきたくと思

います。

それでは、ステップさんの発表をよろしく願いいたします。

<発表団体名 ステップ>

[発表者] 我々は昨年度、活動促進型補助金というもので7万円をいただきまして、活動を1年間やってまいりました。今年は2年目ですので、活動発展型補助金という形で10万円の補助金を申請しております。補助金の審査項目が六つ挙げられていますので、それに沿った形でのお話をさせていただきます。

まず一つ目に、必要性、公益性ということで、まず、日本社会全体にとって、学習支援というのがいかに社会全体の喫緊の問題であるかお話しします。文科省が4年前に子供の貧困対策に関する大綱というものを発表しておりまして、その後、対象自治体の7割が貧困対策を実施している、あるいは実施を検討しているという話が全国的にあります。近隣の市町村では、野田市が無料で学習支援教室を全部の中学校でやっております。残念ながら、白井市はそのような事業を実施しておりませんから、我々のような団体の存在意義があると思っております。

白井市の現状については、平成28年の7月に、白井市役所保健福祉相談室がアンケートをとって、アンケートに該当する世帯が184、回答が88という中で、「学習支援の事業が始められたら利用したい」という回答が76%もあったというのが現状でございます。私どもは貧困と学習が関係あると考え、この事業を始めました。

次に、実現性、自立性については、昨年度から事業を始めまして、実績として去年5月から3月まで、合計86回学習会を開き、延べ501人の参加がありました。今年は4月から3月まで実施することから、週2回で100回前後実施できる予定です。

昨年度は、受講生11名の全てが南山中学校の地元の生徒でした。今年はそれを発展させ、現在は南山中学校以外に大山口中学校の子も応募に来ています。

また、4月末に市の担当課から、該当する家庭にステップに係る案内をしていただきます。そうすると、応募者がふえて、現在の8名から、大体13、4名ぐらいまでは増やせるのではないかと考えております。

去年よりも少し増やした形で、スタッフも受講生も大きく発展型でできるのではないかと考えております。

自発性、事業効果ということでは、実際に高校入試に成功しているというものがあったということで、昨年の実績では、南山中学校3年生が8名おりまして、その子たちが無事卒業、高校入試に成功いたしました。

今後の発展の形態としては、地元中学校以外にも、そしてまたスタッフを拡充して、いづれステップは、多分この白井市も行政による事業実施が行われると思うのですが、そこ

に至るまでの地ならし、下準備、文字どおりステップになることを期待して、活動発展型の補助金を申請したということでございますので、よろしく願いいたします。

[委員長] どうもありがとうございました。そうしましたら、委員のほうから質問をさせていただきますので、時間も限られているので、端的にお答えいただければと思っています。

[委員] 収支予算計画書を頂戴しているのですが、その中で、白井駅前センターの使用料が出てきております。社会教育認定団体へ申請すると減免となるのですが、今年度についてステップさんは申請されておりますでしょうか。

[発表者] 全部やっていると、私は理解していますが、精査します。

[委員] ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

[委員] 13人から14名ぐらいまで対応できそうだというお話があったのですが、もし希望者がもっと多く来た場合、ここに書かれている事業スケジュールのところは20人まで書かれているので、20人までは大丈夫ということでしょうか。それとも、抽選になってしまうのでしょうか。

[発表者] それには、一つは、部屋の大きさの問題がありまして、視聴覚室では可能ですが、研修室だけになると、14、5名でいっぱいだと思います。必ずしも視聴覚室が利用できるとは限らないことから、最終的にどこで線切りしていいのかは、今後検討していくものと考えています。

もう一つは、我々のスタッフ数の問題です。今のところスタッフは10人います。あと2、3人は増える予定ではあるのですが、最終的にはマンツーマンでの授業を想定しております。スタッフが増えれば、その分受け入れられる数も増えますが、現在は大学生に参加を呼びかけていても、全然来てくれないというというのが現状です。

最終的に20人にするのか、13、4人になるのかというのは、まだ最終的には判断がつかかねています。以上でございます。

[委員] わかりました。

[委員] 収支計算書のところで、外部講師の方に謝金と交通費ということなのですが、これ外部講師という方は、どういう方を想定していますか。

[発表者] これは、大学生をイメージしています。我々スタッフがやっている場合には、無償で実施しておりますが、それ以外に大学生が来てくれる場合には、謝金や交通費を支出したいと考え、計上しているということです。

[委員] 大学生のアルバイト代という解釈でいいのでしょうか。

[発表者] そのとおりです。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[委員] この学習支援は、とても重要な取り組みだと思うのですが、子供の支援と同時に、保護者とやりとりする人も、学習態度を身につけるうえで重要だと思うのですが、そこら辺何か取り組み等の計画はありますか。

[発表者] 不定期なのですが、学校で配布されている「学校だより」のような「ステップ通信」という形で、学習の進捗状況や様子等を定期的に配信しています。また保護者からは、何かありましたら、事務局まで連絡をいただく形式をとっております。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

[委員長] 他はいかがでしょう。

[委員] 友達との会話の中で、もしその友達が、貧困層ではないけれどもステップに入りたいとなった場合は、どう対応されますか。

[発表者] 昨年度は、初年度ということもあって、あまり貧困層に対するアピールがうまくいっておらず、そういうときには、貧困層ではない子供たちも受け入れていました。

2年目は、経済的な意味で学習支援が本当に必要となっている子供たちを多く呼びたいと考えております。そのため、貧困層ではない方の応募があった場合は、ご遠慮いただく考えです。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] もうちょっとですかね。いかがでしょう。

[委員] 自主財源の確保について、賛助会費 30 人から 1,000 円ずついただくという予算を立てていますが、見込みはいかがでしょうか。

[発表者] 昨年度は 27 口ありました。今年はさらに PR を実施し、賛助金を集める予定です。

[委員] 頑張ってください。

[委員長] 最後に質問はございますか。

[委員] 将来的に、現在実施している事業を継続していくために、助成金以外の財源と

いうのは、何か考えがございますか。

[発表者] 最終的には市の事業で実施し、我々がお手伝いするという形式で実施しなければ、難しいのではないかと考えます。また、市内で広く実施するということになる、将来的には講師の手配、場所の確保等も含めて、市のほうが積極的にやっていただきたい。

[委員] まずステップさんがモデルを作っていくということでしょうか。

[発表者] そのように考えております。なので、そのステップとして我々はあるという考えで実施しております。

[委員] わかりました、ありがとうございます。

[委員長] まさにステップということですね。

[発表者] そういう名前なので、よろしくどうぞ。

[委員長] どうも本当に貴重なお話、ありがとうございました。これで終了させていただきます。どうもありがとうございます。

<発表団体名 ふじ元気ひろば>

[発表者] 私たちは、一昨年秋から富士地区で、もとは子供の元気食堂からスタートしました。都内とか県内で同様の事業を始めた方々を見学しまして、一昨年秋に、地元の町会と第三小学校の地区社協の方に、元気食堂を実施したいというご相談をしました。そうしたところ、社会福祉協議会が複合センターで実施している地域ぐるみネットワークふれあい会議にちょっと顔を出させていただいて、地域で何が必要なのか、何が問題なのかというところを学びました。

一昨年末に、富士センターで行われた自治会の総会に出席させていただいて、元気食堂を実施したいということをお話したところ、かなり賛同していただいて、スタートしました。

現在は、昨年の3月から例会という形で月1度活動しております。屋外の活動が主体でやっておりまして、天候の影響や、市のふるさと祭り等と重なり、予定していた日にちにならなかった経緯もありましたが、当初予定していた人数よりも多くの方に利用していただきました。

これからの展開ですが、作物を育てるには、素人だけではなかなかうまくいかず、プロの方の手を借りないといけないなということで、今年は農家の方に手助けいただいて、手助けいただきながら実施しているところです。

おかげさまで、小さい子から高齢者の方まで参加していただいて、高齢者の方は、小さい子供たちと触れ合うことを非常に楽しみにして来ていただいていますので、良かったと感じております。冬場については、屋外の活動がなかなか規制されていまして、音楽会ということで一度やってみましたけれども、大勢の方に参加していただいて、良かったと感

じております。

これからも様々な催しを実施していったって、地域の人たちや若い人の参加する仕組みを考え、参加を促したいと考えています。

[委員長] お話ありがとうございます。

そしたらまた、こちらの委員のほうからご質問させていただきますので、簡潔にお答えいただければと思います。

[委員] 収支予算計画書のほうを見させていただいて、この外部講師謝金にある、外部講師というのは、どういう人が対象になるのか。

[発表者] 野菜の生育の指導をする方と、冬場に音楽会に出演いただく方です。

音楽会について、昨年度は3団体来ていただいたのですが、ボランティアで出演していただきました。

しかし、いつまでも無償で指導いただくのは難しいので、交通費と謝礼を計上しております。

[委員] ありがとうございます。

[委員] 素晴らしい取り組みだなと思うのですが、先ほど、できるだけ若者が入ってこられるような仕組みをつくりたいとおっしゃいましたが、その仕組みの構想はありますか。

[発表者] もともと、私は保育園に携わっておりまして、保育園に来ている親と、毎朝、交通整理を実施していますが、その関係を熟成させていくことによって、お父さんたちを引っ張り出すことを考えています。お母さんも子育てで大変だというのがあって、できるだけ、お父さんに参加を促しているところです。

昨年の11月にバーベキュー実施しましたが、そのときにお父さんは参加してくださいませ。ですけれども、祭りのお手伝いといふとなかなか腰が重く、なんとかお父さん方に参加してほしいと願っているところです。

[委員長]他にございますか。

[委員] もともとは子ども食堂を実施したいというところから始められたということですが、今広く呼びかけているところだと思うのですが、孤食の子どもさんや、食べるに困っている方への呼びかけというのは、どのように考えておりますか。

[発表者] 家庭児童相談所の方のご協力もいただき、できるだけ促していただいているところです。これは非常に難しいところで、子供は来たいと言うのですが、親が止めるなどする場面があります。今後は、できるだけ子供たちの輪を広げて、「誰それちゃん

も行っているから一緒に行こうよ」という形にして、子供も1人でも参加できるような仕組みを作らなければならないと考えております。

[委員長] ほかはどうでしょうか。

[委員] 保育園と、ふじ元気ひろばさんの関係は、どのようなものですか。

[発表者] 保育園では子育て支援という事業も一つやっていますが、週3日しか使っていないため、空いている時間を利用しています。

[委員] 事業を実施される方は、地区社協さんや民生委員さんや自治会さんでしょうか。

[発表者] そのとおりです。ただ食べるものがあるので、食べるものだけは、私たちの施設の保育園の調理師と栄養士に出させていただいて、食事を用意してもらっています。その他は、食事をする中の用意について、地区社協の方や民生児童委員の方にお手伝いいただいています。

[委員] わかりました。ありがとうございます。

<発表団体名 NPO法人白井助け合いネット>

[発表者] 基本的に私たちが展開しているのは、地域でのサロンです。今回発表させていただきますのは、介護施設3カ所で定期的に行っているサロンということです。実際には、さつきの里、ウィズホスピタル、リハモードで実施しております。

この3館の中で、特にさつきの里ではリハビリテーションルームを使わせていただいております。非常に好評で、実際に自分の健康に対する前向きな姿勢が出てきています。また、どの施設でも最後には必ず梨トレ体操をやって終わるということにしています。しかし、体操でございますから、最初は参加者の皆さんは抵抗があったようです。しかし、さつきの里においてはレッドロープを使わせていただき、十分に体操ができるというようなことで、それを目当てに来ていただいている方もいらっしゃいました。

その他に、歌を歌うことも実施しております。歌は脳の活性化には良いということなのですが、楽しさの雰囲気、それと参加意識をお隣の人との共有し、非常に良い感じになっていることが伺えます。

歌を歌う際にはサロンの歌の本を用意しており、表紙にかなり凝った写真だとかを入れました。実際の歌では、ハーモニカと一緒にみんなで楽しく大きな声で歌いましょうということで、ハーモニカの独奏を聞いていただくのと一緒に歌っていただき、盛り上がりました。

その他にも、折り紙の作業も実施しております。作業をする際に、隣の人と教え合うというようなことを実施して、和やかな雰囲気を出すことができたと考えております。

次に、これらのサロンを続けていくためには、とって大切なことが考えられます。それは実際には多くの方に知っていただく、サロンがあるということを周知することです。

それから、それに参加していただくということで、続けることの前提として、チラシをカラー印刷で行い、配架する予定です。今までは白黒でやっておりましたが、インターネット等で比較的安く依頼できるので、カラー印刷をなるべくいいものにして、量を配布したいと考えております。

[委員長] そしたら、委員のほうからご質問させていただきますので、お互い簡潔にお答えいただければと思います。

[委員] サロンの参加者なのですけれども、施設に入所されている方と、それから地域の住民の方の割合はどのようになっているのでしょうか。

[発表者] 入所されている方については、ほとんど参加はありません。

[委員] 地域住民の方がほとんどということでしょうか。

[発表者] はい。さつきの里はほぼ入所者の参加者はなく、千葉白井は1割ぐらい、リハモードについては少し多く、全参加のうちの2割ほどが入居者でした。

非常に喜んでいただいたのは、リハモードさんは初めてだったのですが、クリスマスのリースをつくっていったのですが、ちゃんと透明な袋に入れて、しっかりお持ち帰りいただいて、先方さんにも喜ばれました。

[委員] わかりました、ありがとうございます。

[委員長] ほか、いかがでしょうか。

[委員] その1割とか2割とかが入所されている方ということで、いずれは入所者の方ももっとたくさん増やしていくという考えなのですか。入所者の人と近隣の人とのコミュニケーションの場ということで、そういう施設にこだわって実施しているということでしょうか。

[発表者] はい。ご家族と一緒に車いすで参加されているケースが、今後ふえていただけるといいと考えております。

[委員] ありがとうございます。

[委員] 事業計画書の中で、開催場所の確保がなかなか難しいと書かれているのですが、開催場所の確保のところ、今どのような状況でしょうか。

[発表者] 実施場所の施設入居者の方が増え、施設のスタッフの方が忙しいと実施が難しいと考えます。特に、昨年度は開催の時間がお昼ご飯の時間なので、今年度は、お昼ご飯

の繁忙期が過ぎた2時か3時ごろぐらいからということで、お願いしようと考えております。

その他の場所は、我々のほうのスタッフも少ないものですから、徐々にということで、やはり面に広げるのには、ただ続けることがいいことなので、面に広げたいという意識を持っていますので、点から面への展開は必ずやっていこうと思っております。

[委員長] よろしいですか。ほかはいかがでしょう。

[委員] 収支報告予算計画書で、開催が午後とありますが、食糧代が計上されております。外部スタッフへの食糧代が必要なものなののでしょうか。お昼を挟んでいるのでしたら、食糧代を計上するのもわかりますが、今回の場合はどのような意味合いを持つ食糧代なのかお聞きしたい。

[委員] 質問を補足させていただくと、外部スタッフへのお菓子代が、各回6人にお菓子代と、それからバス代を支出するという予算計画にはなっているのですが、それらをどういう外部スタッフに出すのか、どういう形で出すのかの予定を伺いたい。

[発表者] スタッフは、コーヒー作りをいきいきライフのメンバーの方をお願いしております。大体、毎回3人から5人をお願いしております。当NPOの社員は、大体、会長含めて4人ぐらいが参加しています。

それに加え、折り紙は、特にさつきの里の方が一生懸命やっていたいでいるので、7、8人が実施にあたっています。

[委員] 収支予算計画書にあります、体操の指導職員の方が年4回参加するということですが、どこからいらっしゃる方なののでしょうか。

[発表者] この体操の指導職員は、さつきの里のリハビリの指導をされている先生になります。

[委員] その先生にこのサロンにも来ていただくということでしょうか。

[発表者] その方へのお礼として、特別にお茶菓子と、それからプラスアルファぐらいのところでしか考えていません。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] それでは、お時間も参りましたので、これで終わらせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

[事務局] 以上をもちまして、平成30年度市民団体活動支援補助金の審査に係る公開プレゼンテーションを終了いたします。ありがとうございました。

(3) 補助金審査の流れ[非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第6号に基づき、補助金審査の内容のため。